

希望を胸に 入学・入園

町内の小・中・高校やこども園では、4月に入学式・入園式が行われ、新入生たちが希望を胸に新たな一歩を踏み出しました。



誓いの言葉を述べる二瓶さん

目標に向かって新たな一歩

猪苗代高校の入学式は4月11日に行われ、普通科に新入生25人が入学しました。

式では、滝田勝彦校長が全員の入学を許可し、「自らの夢を見つけ、夢を育てて、自らその実現に向かって進んで行くことを期待します」と式辞。新入生を代表して、二瓶愛莉さんが「これから過ごす3年間の高校生活を1日1日大切に、悔いのない日々を送り、何事にも挑戦する気持ちで大きく成長したいです」と誓いの言葉を述べました。

こども園で一緒に遊ぼう

ひまわりこども園とさくらこども園の入園式は4月10日に行われました。

乳児部と幼児部合わせて21人が入園したさくらこども園の入園式では、新入園児たちが保護者らに拍手で迎えられながら入場。自分の名前が呼ばれると、大きな声で元気よく返事をしていました。古川いち子園長は「先生たちは毎日皆さんが来るのを楽しみに待っています。元気にこども園に来てください」と式辞を述べました。



入園式に臨む新入園児(さくらこども園)

楽しい小学校生活がスタート

町内6小学校の入学式は4月6日に行われ、1年生85人が元気に小学校生活をスタートさせました。

このうち吾妻小学校では10人が入学。呼名の後、安藤靖校長が「学校はとっても楽しい所です。これから毎日ワクワク、ドキドキが待っています。楽しみにしててください」と式辞を述べました。在校生を代表して6年生の小椋正晴さんが「みんなで仲良く楽しい学校生活を送りましょう。そして、たくさん思い出を作っていきましょう」と歓迎の言葉を述べました。



緊張した面持ちで入学式に臨む吾妻小の1年生

夢の実現に向けて

猪苗代中学校の入学式は4月6日に行われ、新入生90人が志を胸に新たな一歩を踏み出しました。

横山泰久校長が「中学校3年間の生活は忙しくなることもありますが、自分を成長させる多くのチャンスが待っています。目的、正直、忍耐を大切に夢や希望を叶えてください」と式辞。新入生を代表して古内駿多さんが「自分自身の夢や希望に向かって、なりたい自分に向かって何事にも全力で取り組み、立ち向かえる中学生になります」と誓いの言葉を述べました。



期待を胸に入学式に出席する新入生

「中ノ沢系こけし」 県伝統的工芸品に指定



交付式に臨んだ(前列左から)たこ坊主会の柿崎文雄会長、中ノ沢系こけし工人会の瀬谷幸治会長、内堀雅雄知事、前後公町長(後列左から2人目)

県伝統的工芸品の指定書交付式は3月30日、県庁で行われ、本町の「中ノ沢系こけし」と金山町の「マタタビ細工」の2件が新たに指定されました。指定は、2008(平成20)年以来15年ぶり。国の指定5件を含め、今回で42件となりました。

県では、県内の工芸品の伝統を守り、地域の産業振興につなげようと、伝統的な技法で作られ、おおむね100年の歴史があることなどを条件に指定しています。

昨年100周年を迎えた中ノ沢系こけしは、個性的な表情が魅力で、別名「たこ坊主」とも呼ばれる存在感抜群の風貌は、1922年に中ノ沢に移住した岩本善吉が生み出しました。

現在は、9人の現役工人が制作活動を行っており、地元小学生への講話や絵付け体験の授業、卒業記念品の製作等が行われています。

地域おこし協力隊通信

私たちが地域を元気に！
地域おこし協力隊

小林 澄子^{すみこ}さん

主な活動内容：観光振興・伝統工芸品等PR促進



2020年6月から地域おこし協力隊として、商工観光課で観光振興業務に携わり、今年の5月で卒業します。長いようであつという間の3年間で、町内の皆さんだけではなく、磐梯町、北塩原村、郡山市など、広域で活動をする機会にも恵まれ、学びの多い3年間でした。猪苗代町への移住の目的である中ノ沢系こけしの工人修行もいよいよ大詰めを迎え、親方の柿崎工人とともに引き続き活動中です。

昨年、中ノ沢系こけし『たこ坊主』誕生100周年を迎えたことを機に、猪苗代町で初めて、また福島県でも15年ぶりの新規登録となる「福島県伝統的工芸品」に指定されました。これは、地域で活動する工人さんたちと、地元の有志で活動を続ける「中ノ沢こけしプロジェクト実行委員会」、猪苗代町が協力し、継続的な活動を行ってきたからこそ実現したことだと思っています。また、地域の伝統を引き継ぐ1人として、改めて身の引き締まる思いです。

地域おこし協力隊の活動は終了しますが、今後は、中ノ沢系こけし工人として独立を目指し活動しながら、地域に根差した仕事を続けていく予定です。引き続きよろしくお願ひします。